

# 旅する蝶チョウの結果報告

# 河陽新聞

旅する蝶チョウをまねく計画は108頭にマーキング（印入れ）南の国に帰りました。

「チョウは空から舞い降りて来ました」

25年度の事業計画で  
かかげました「旅する蝶  
チョウをまねく計画」は、  
108頭に川尻のマーク  
をマーキング（印入れ）  
し南の国に帰りました。  
今回の計画は川尻小学  
校「緑の少年団」活動支  
援の一環として取り組まれ、  
川尻商店街連合会青年部  
（福山龍太郎部長）「商  
店活性化事業」支援を  
受け商店街や小学校の玄  
関に設置されました。

この旅する蝶チョウ  
「アサギマダラ」は春に  
日本に飛来し秋には台湾  
や琉球列島へと移動する  
「旅する蝶チョウ」で、  
第一番目の蝶は10月15日  
朝の8時に飛来しました。  
第一発見者で捕獲もさ  
れた藤田まり子校長先生  
からの一報は、とても感  
動と興奮された様子の伝  
わる内容で留守番電話に  
残されており、それから  
108頭捕獲されました。



10月22日の熊日新聞一  
面カラー記事で取りあげ  
られ、県内に話題を提供  
すると同時に多くの人が  
小学校に飛来する蝶チョ  
ウを眺めに来られました。  
また2月には、熊本市  
青少年健全育成協議会  
（吉村圭四郎会長）の研  
修会で川尻校区の取り組  
みが発表されました。参  
加者からの質問の中に  
「その目的とどう？」と  
を問われました。

校区のみなさんも「暮  
らしてみたい町」とはど  
んな町か、ご提案下さい。  
近年の川尻を振りかえつ  
てみると、東京オリッピ  
クの開催された昭和39年  
川尻電車が廃止され、そ  
の当時までホテルもトン  
ボや蝶チョウも数多く乱  
舞していました。



熊本市南部地区市民の会 発行責任者 村田幸博



旅する蝶チョウ「アサ  
ギマダラ」を招くために  
（右写真）の川尻らしい  
植木鉢がデザインされま  
した。ちなみにこのデザ  
インはテレビやラジオで  
人気の松崎ひろゆきアナ  
ウサー（10町内・野田町）



## 旅する蝶チョウを呼ぶには？

酒樽をイメージ  
した植木鉢から、  
今年の新芽が出は  
じめて来ました。  
9月には花を咲か  
せ、10月中頃～11  
月はじめに旅する  
蝶チョウ「アサギ  
マダラ」が今年も  
立ち寄ります。

しかし、その頃を境に  
中心を流れる無田川はド  
ブ川化しエビやアカハラ  
（サンショウウオ仲間）  
も見られなくなると同時  
に、町民の数も少なくな  
りました。そこで気づき  
はじめた事は人も自然界  
も環境を整えることの大切  
さでした。

旅する蝶チョウ「アサ  
ギマダラ」を招くために  
（右写真）の川尻らしい  
植木鉢がデザインされま  
した。ちなみにこのデザ  
インはテレビやラジオで  
人気の松崎ひろゆきアナ  
ウサー（10町内・野田町）

が描かれたもので、ズイ  
ヨウ酒造の2斗樽をイメー  
ジして町内に100鉢置  
かれています。

また、先日までこの鉢  
に吊り下げられていたフ  
ジバカマの枯れ枝は香り  
を醸し出す風景でした。

この河陽新聞は、年に  
3回発行され川尻校区の  
全世帯3000世帯へ配  
布されています。

川尻校区では年間を通  
じ、川尻月間をはじめ色々  
な取り組みや、婦人会な  
ど各種団体の活動も活発  
に繰り広げられています。  
今年の「酒蔵まつり」  
の報道を新聞・テレビで  
眺められたと思います。

参加者数は7000人  
を越え、肥後銀行まで行  
列が出来ました。

また、JRの電車であ  
りながら、乗車した人も  
多く電車に乗れない人  
もいたとの事です。



### 編集後記



川尻校区では、こんな事もありました。

くまもと南区 わっしょい！ペーロン競漕 & 青空市 平成25年9月22日（日曜日）



その昔も同じように楽しんでいました！ 川尻・加勢川ペーロン競漕大会 1989年（平成元年）8月15日

